

消された信仰～「最後のかくれキリシタン」  
人々～

長崎・生月島の

消された信仰

広野真嗣



「最後のかくれキリシタン」  
——長崎・生月島の人々

新世界  
遺産から

島が  
あった  
黙殺  
された

長崎「潜伏キリシタン関連遺産」  
カトリック史の  
「重大タブー」に迫る!

第24回 小学館ノンフィクション大賞受賞作!

小学館

発売日: 2018年6月22日

出版: 小学館

著者: 広野真嗣

ページ: 228

PDF

新・世界遺産から黙殺された島があった！

250年以上も続いたキリスト教弾圧のなかで信仰を守り続けた「かくれキリシタン」たち。その歴史に光を当てようとしたのが日本で22番目の世界遺産となる「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」だ。

ところが、PRのために長崎県が作ったパンフレットからは、「最後のかくれキリシタンが暮らす島」の存在がこっそり消されていた。

その島の名は「生月島（いきつきしま）」。

今も島に残る信仰の姿は、独特だ。音だけを頼りに伝承されてきた「オラショ」という祈り、西洋画と全く違う筆致の「ちょんまげ姿のヨハネ」の聖画……取材を進める中で、著者はこの信仰がカトリックの主流派からタブー視されてきたことを知る。一体、なぜ。

第24回小学館ノンフィクション大賞受賞作。選考委員激賞！

高野秀行（ノンフィクション作家）

「世界遺産の意義とは？ キリスト教とは何か？ 奥深い問いを投げかける作品だ」

三浦しをん（作家）

「いまを生きる『かくれキリシタン』たちの生の声が胸を打つ。綿密な取材に感動した」

古市憲寿（社会学者）

「『ちょんまげ姿のヨハネ』をはじめ、謎めいた習俗を紐解く過程が抜群に面白い！」

<https://k2s.cc/file/064481e999e1b/SVZQISUrH.pdf.rar>